



より早く より美しく
ドリフトの頂点を目指して

木村 彬人

PROFILE

きむら あきと
工学部4年

レ イスやラリーなど様々な競技があるモータースポーツには、「D1」というカテゴリがあります。これは映画などおなじみの華麗な運転テクニク「ドリフト」を競うもの。香川大学工学部の4年生、木村彬人さんは、このD1の登竜門イベントである地方戦「D1 DIVISIONAL SERIES (ディビジョナルシリーズ)」のミドルクラスに挑み、初参戦ながら第1戦で2位、2戦で8位の好成績をマーク。3戦では決勝進出はできませんでしたが、7月現在シリーズランキング暫定2位と大健闘しています。競技を始めたきっかけは、高校生の時に生でドリフトを見たことだという木村さん。その後チームに所属し、徳島を拠点に県外のサーキットに遠征して腕を磨いてきました。競技に出るには、車の手入れも欠かせません。木村さんのレンタル倉庫には日産180SX、シルビアS13、S14後期の3車種5台が並び、今は大会と並行して、上位クラスへの選考会に向けた車のチューンナップにも取り組んでいます。

「競技には最新の車も出ますが、やっぱり自分の車が一番コンピューターのセッティング以外は自分でやります。とくにエンジンは頑張ってますが、遠征費もジャケツトなど、いずれかを身につけるのがルール。場合によっては子どもに声をかけながら活動するメンバーの身分を保証する」とともに、見守り活動自体のアピールにもなり、それが防犯につながるという狙いがあります。香川大学のメンバーは、サークル活動を通じて地域の子どもたちとは顔なじみなので、見守り活動もスムーズ。時には「お兄ちゃん一緒に家まで帰ろうよ!」と手を引かれることもあるそうです。

守るんジャーの活動は、結成2年目に入って初めて参加している全学校が協働する動きが出てきました。各学校のリーダーがメールで連絡を取り合いながら、ホームページとイメージキャラクターを制作しています。イメージキャラクターの原案は、なんと秋山さん。「数学教員を目指しているのがラフを描くのは得意ですが、絵には自信なかつたのに」と本人が一番驚いています。各リーダーとも就職活動中で忙しい中、本年度中の完成を目指しています。

「守るんジャー」の他にも、多くの団体が防犯活動に取り組んでいます。ホームページやキャラクターをきっかけに、興味を持つ人が増えてくれれば」と、まずは参加者を増やすことに力を入れている秋山さん。活動が広がることで、地域の犯罪が減ることを願っています。

「守るんジャー」の他にも、多くの団体が防犯活動に取り組んでいます。ホームページやキャラクターをきっかけに、興味を持つ人が増えてくれれば」と、まずは参加者を増やすことに力を入れている秋山さん。活動が広がることで、地域の犯罪が減ることを願っています。

「守るんジャー」の他にも、多くの団体が防犯活動に取り組んでいます。ホームページやキャラクターをきっかけに、興味を持つ人が増えてくれれば」と、まずは参加者を増やすことに力を入れている秋山さん。活動が広がることで、地域の犯罪が減ることを願っています。



秋山 秀嗣

PROFILE

あきやま ひでつぐ
教育学部4年

6つの学校の学生が
力を合わせる「正義の味方」

さめきヤンボラ 守るんジャー

子 どもの見守り活動を中心に、大学周辺地域の防犯に「役買う学生ボランティア」の名も「さめきヤンボラ守るんジャー」。大学生の傍ら、腕章などを着けて街の中に出ていき、地域の安全のために目を光らせています。ちなみに、ヤンボラとはヤング・ボランティアの略です。「守るんジャー」が結成されたのは2010年。安心・安全な地域作り貢献するため、香川県警の要望の下、香川県内の5つの大学とひとつの高校の学生が協力して作られました。この時、香川大学から参加したのは、レクリエーションや人形劇などを通じて、地域の子どもの成長を助けるサークル「児童文化研究会」の全メンバー。「見守り活動は普段からやっている」という理由でサークル丸ごとの参加を決め、現在も継続しています。「守るんジャー」の初代代表は、教育学部4年の秋山秀嗣さん。中学校の教員を目指して猛勉強中の現在も代表を続けているだけでなく、「30才くらいまで代表を続けてもいいと思っています」と活動に前向きです。

「守るんジャー」の活動方法は、すべてが学生に任されています。香川大学では見守り活動を中心に、日時を決めず、各自の判断で動くようにしています。全員の時間を合わせて活動が限定されるより、時間が空いた人がその都度行動する方が、見守りの回数が増えるという秋山さんの判断です。見守りに出る時には、県警から配布された腕章やジャケツトなど、いずれかを身につけるのがルール。場合によっては子どもに声をかけながら活動するメンバーの身分を保証する」とともに、見守り活動自体のアピールにもなり、それが防犯につながるという狙いがあります。香川大学のメンバーは、サークル活動を通じて地域の子どもたちとは顔なじみなので、見守り活動もスムーズ。時には「お兄ちゃん一緒に家まで帰ろうよ!」と手を引かれることもあるそうです。

守るんジャーの活動は、結成2年目に入って初めて参加している全学校が協働する動きが出てきました。各学校のリーダーがメールで連絡を取り合いながら、ホームページとイメージキャラクターを制作しています。イメージキャラクターの原案は、なんと秋山さん。「数学教員を目指しているのがラフを描くのは得意ですが、絵には自信なかつたのに」と本人が一番驚いています。各リーダーとも就職活動中で忙しい中、本年度中の完成を目指しています。

「守るんジャー」の他にも、多くの団体が防犯活動に取り組んでいます。ホームページやキャラクターをきっかけに、興味を持つ人が増えてくれれば」と、まずは参加者を増やすことに力を入れている秋山さん。活動が広がることで、地域の犯罪が減ることを願っています。

